

「モリイク」は、コープ未来の森づくり基金が、森と人、森づくりと人をつなぐ目的で発行している冊子です。

編集後記

柏の下に露汲みて 四年の夢を育みし 北の都ぞ柏陵に
麗しくも懐かしき青春賛歌を奏すれば 塵生の夢は消え失せぬ
憂いの酒を飲み干せし 友よ更に新しき盃求めてさすらわん。

これは母校で歌い継がれている逍遙歌の一節で、卒業から20年近くたった今でも、森を歩いているとふと思ひ出すことがあります。この歌詞を見るたびにカシワ・ミズナラの森が北海道を代表する森の姿であり、身近な存在として愛されていたことが感じられます。

今でも道内各地でカシワ・ミズナラ林を見ることが出来ますが、二次林と呼ばれる一度伐採された林であることも珍しくありません。

こういった森は一見すると豊かな森なのですが、よくよく見ると細い木が王冠のように同じところから生えていて、もともと一つの切り株から脇芽が出て育ったことがわかります。言い換えれば、これはかつてそこに大木があったことの証であり、開拓前の森がいかに豊かで深い森がそこにあったのかを想像させてくれる手がかりにもなります。とくにカシワ・ミズナラの寿命は長く樹齢数百年になるものもあり、そんな巨木の森を想像すると胸が熱くなります。

失った森の回復はただ植えればだけではなく、失ったことによる環境の変化とも向き合わなければなりません。森林再生は長く根気のある取り組みです。でもどんな巨木も最初は一個の種子から。

植樹は百年先の森を作る最初の一步。ぜひ植樹の時には百年先の未来を思い浮かべて植えてあげてください。

アンケート & プレゼント

「モリイクvol.3」いかがでしたでしょうか。今後の紙面づくりのために、アンケートにご協力をお願いします。

- Q1 モリイクを読んだ感想をお聞かせ下さい
- Q2 面白かった記事・つまらなかった記事はどれですか？
右の項目からそれぞれ3つお選び下さい
- Q3 コープの森づくりの活動に参加したことがありますか？（はい・いいえ）
- Q4 コープ未来の森づくり基金の活動へのご意見があればお聞かせください
- Q5 取り上げてほしい記事のテーマがありましたらお書き下さい

巻頭コラム p2,3、
特集 p4~7、
木づかい p8、
樹の話 p9
森のキモイ・キレイ p10,11、
コラム2 p12
基金活動報告 p13~15

プレゼント 5名様



外来種駆除で伐採された札幌藻岩山のニセアカシアで作ったチエモク株式会社製の黒板消しストラップです。

応募方法

はがきにアンケートの回答を記入の上、住所・氏名・年齢連絡先を明記し、葉書、FAX、メールにてお送り下さい。プレゼントの当選は発送をもって替えさせていただきます。

応募締切 5/31(木) 当日消印有効

コープさっぽろ基金事務局

〒063-8501
札幌市西区発寒11条5丁目10-1
FAX 011-671-5743
メール csap.k.asumori@todock.jp



携帯メールは
こちらからどうぞ

モリイク vol.03 2012年3月発行
発行元/ コープ未来の森づくり基金 制作/ LLCのこたべ

■コープ未来の森づくり基金は、組合員さんのノーレジ袋へのご協力で支えられています。

この冊子は環境に配慮して大豆油インクおよび100%再生紙を使用して作成しています。

コープ未来の森づくり基金レポート

モリイク

M O R I - I K U

森に行こう。
森で育とう。
森を、育てよう。

vol.03
Mar. 2012



北海道の森再生への道

失われゆく北海道の森林。
再生のためにできることは？

モリイク

見上げれば
黄金色の木々と空。
こんな美しい森の姿が
未来の向こうまで
続いていきますように。

* contents *

- *02 コラム 森づくりのトレンド
未来のための市民による森づくり
- *04 特集 NPO法人 サロベツ・エコ・ネットワーク
地域を守る 森を育てる
- *08 木を使うことで再生する森
株式会社チエモク
- *09 もっと樹のことを語ろう
樹の話
- *10 親子で楽しむ森のページ
森のキモイ キレイ
- *13 コープ未来の森づくり基金報告
北海道の森づくり交流会2012
- *14 国際森林年記念講演会
C.W.ニコルと森を考える

Starting Column 森づくりのトレンド

あした 未来のための 市民による 森づくり

北海道の森林の開拓前と現在の姿を比較すると、第一に森林の面積が減少していること、第二に森林の質が劣化していることが指摘できます。

まず面積から見ていきましょう。日本全国の土地利用の推移を推定した研究がありますが、これによれば開拓前の1850年ごろの北海道は湿地などを除いてほとんどが森林に覆われていたとされています。例えば周辺の山地・丘陵地を除いて緑がほとん

ど消えてしまった札幌市も、開拓前は植物園にあるような森が広がっていたのです。その後開拓が進む中で森林面積は大きく減少してきます。この様子を示したのが下の図で、農地そして居住地を確保するために森林が開発されていったことがわかります。こうした開発は近年まで行われており、例えば道東の別海町では酪農のための草地開発の影響によって1970年には約77,000haあった森林が、

1990年には約3haまで減少しました。開発の進展は地域によって大きな差があり、開発が大きく進んだ平野部に比較して、山間地域では農地などへの転用はそれほど進まず、現在でも森林面積の比率が9割を超えるような山村が存在しています。

次に、森林の「質」です。もともと北海道には豊かな天然林が存在していましたが、伐採活動によって貧弱な森林になってしまいました。特に戦後、高度経済成長を支えるために行われた伐採が大きな影響を与えたとわれています。また、より効率よく木材を生産するために天然林を伐採して人工林に転換してきており、全道森林面積の3割弱を占めるに至ってい

ます。人工林は天然林に比べて森林の構造が単純で生物多様性保全など生産以外の森林の機能が劣っていると指摘されています。

このように北海道の森林は面積、質ともに低下してきています。ただ、森林を開発することで人々の生活の場をつくり、食や経済を支えてきたことは間違いありません。また人工林をつくることは、木材生産を増やし、山村の社会経済を支え、私たちの生活を支えることに貢献しています。すべてを否定することはできません。

それでは今北海道の森林をよくするためには何が必要なのでしょう？

第一は積極的に人間が手を入れて森林の再生の手助けをすることです。今回紹介されている

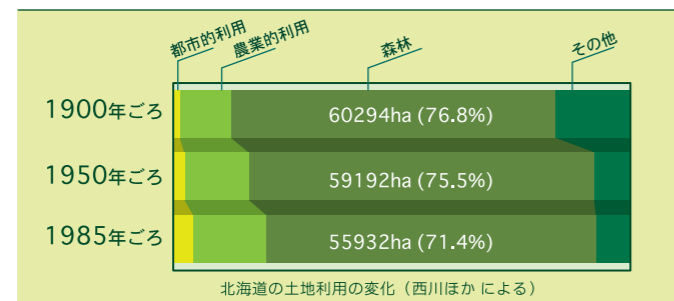
サロベツ・エコ・ネットワークのように、人間活動によって失われてしまった重要な価値を持つ森林を再生していくことがその一つです。大規模な草地開発を進めた道東の浜中町では農協が中心になって緑のネットワークをつくり直そうという動きもあります。都市においてもこのような動きがあり、例えば帯広市では1970年代から市街地を取り囲むような外周樹林帯を市民とともに作り育ててきています。

人間が手を入れることで、既存の人工林の生物多様性を高めるという動きもあります。伐採の仕方を工夫して多様な動植物が生育できるような空間をつくり、多様な樹種を植えこんで森林の構造を複雑化するという

ことも試みられています。

もう一つ私たちができることは「待つ」ことです。劣化してしまった天然林を人間の手で「促成栽培」することはできません。そうするとしばらく休ませてあげて自然の回復を気長に待つということも必要です。

森林再生の取り組みはまだ始まったばかりで、十分な知見が蓄積されているわけではありません。そうした点で、試行錯誤を繰り返してよりよい再生の仕方を探りながら進めていくことが必要とされています。専門知識を持った人と、森林に関心を持っている市民の協働作業が必要とされていると思います。✦



柿澤 宏昭
(かきざわ ひろあき)

北海道大学
森林政策研究室 教授
コープ未来の森づくり基金 運営委員長

1959年神奈川県横浜市生まれ。北海道大学大学院農学研究科修士課程修了。現在、北海道大学農学部森林政策研究室教授。持続的な森林管理を多様な人々の協働で支えるしくみづくりをテーマに研究を行っている。また、欧米、ロシアなどの森林管理政策にも詳しい。主な著作に『エコシステムマネジメント』（築地書館）。2008年より「コープ未来の森づくり基金」運営委員長を務める。

地域を守る 森を育てる

わかさかない
稚咲内砂丘林再生。
そこには、地域に暮らす人々が
深く関わっています。
それは、「森は地域を守るものだから」
だと言います。



写真：稚咲内砂丘林を上空から見下ろす。日本海の海岸に沿って約20kmにわたって列になって発達する砂丘林の様子がよく分かる。海（左）からの強風を受け止め、内陸側（右）の湿原や牧草地、集落を風雪や砂、潮から守っている。（写真提供：岡田 操）



サロベツの
森も湿原も
大好き！

森づくりの後は
地域みんなで
チャンチャン焼き！

カミネッコンも
作ってみたよ

やっと芽が出た
みんなのどんぐり、
大きく育て！



地域みんなが愛する森づくり

NPO法人 サロベツ・エコ・ネットワーク

サロベツを体感する！
地吹雪の中で遊ぶ子ども達

冬のサロベツ湿原は見渡す限りの雪原。どこまでも歩いていける自由さは、夏よりもその広さを楽しめるくらい。風が吹くと一面の地吹雪の中、楽しく歩き回るのは地元の子どもたち。

1年を通じてサロベツの自然のすばらしさや不思議さを学び、体験する「なまら!! サロベツ∞クラブ」に参加するみんなは、ちょっとくらいの吹雪は楽しみのうち。吹き付ける雪で顔を真っ白にしながら雪面を駆け回って遊んだり、ウサギの足跡や糞を見つけてはその暮らしを思い描いてみるのです。

自然と産業の共存で
地域を豊かにしたい。

6,700haを誇るサロベツ湿原は道内で3番目の広さ。ここに含まれる高層湿原※は560haにおよび、これは実は低地にお

ける日本最大の高層湿原なのです。その中に暮らすのは、絶滅が心配される20種を含む約450もの植物と、200種以上の鳥獣。貴重で多様性に富んだ生態系。そんな大湿原も、農地化などでこの50年で約半分に減ってしまい、現在も乾燥化が進んでいます。

環境省が中心となって平成16年から始まった「上サロベツ自然再生事業」は、こうした湿原の減少をくい止めて保全しつつ自然と共存する酪農を目指し、地域産業を育てるという事業です。

NPO法人サロベツ・エコ・ネットワークは、サロベツ原野をフィールドに、湿原の乾燥化に関する調査や動植物の調査など、サロベツの自然環境についての調査研究、外来種駆除などの湿原保全、それに地域の自然の普及啓発を核に活動を展開しています。冒頭で紹介した「なまら!! サロベツ∞クラブ」は子どもたちに地域の自然の価値や面白さを伝え、サロベツ原野という地域の宝を、地域で知って、

地域で守ろうという取り組みなのです。このほかにも大人向けの自然観察会、海岸の清掃など、地域の自然に関わることを地域の人たちが中心となって行っています。

その中で最も早く取り組みが始まったのがわかさかない稚咲内砂丘林の森林再生。人の営みによって一部の砂丘林がなくなってしまい、そこから吹き込む風は周りの森や湿原、牧草地に潮や風雪や砂を吹き付け、豊かな自然や人の暮らしを脅かしていることがわかってきました。人と自然の豊かな共生のために、稚咲内では地域みんなで手を取り合った森林再生が始まっています。そこにはどんな思いがあるのでしょうか。



サロベツ・エコ・ネットワーク
information

〒098-4124 天塩郡豊富町字豊富東4条3丁目
(共同福祉施設内)
☎ 0162-82-3950
🌐 <http://www.sarobetsu.or.jp>

※高層湿原：植物遺体（泥炭層）が地下水位よりも高く堆積した湿原のこと。冷涼で貧栄養な環境下で発達するミスゴク湿原。



この森は 自然を、産業を、地域を守る。
だから、自分たちで育てるんだ。

地域をつなぐ森

地域で、
育てよう

自然に魅せられる。
そんな原野。

見渡せば原野と空の広さに驚いた。足元に目をやれば花が咲き、たくさんの生き物がいることに感動した。

「サロベツがどんなところか知らずに、とにかく国立公園で働きたくて、サプレンジヤーとしてアルバイトをしていたんです」と話すのは、NPO法人サロベツ・エコ・ネットワークの事務局長を務め



事務局長の嶋崎暁啓さんはサロベツの自然に魅せられて5年前に稚咲内に移住した。

る嶋崎暁啓さん。滝川の出身で東京を学びの場としながらもサロベツに惹かれて移り住んだのだそうです。「毎日歩いてみると、季節はもちろん、1日の中でも全然違う。ここで働きたいと思いました」と嶋崎さんが語る自然は、砂丘とその内陸側に生まれた湿原が織りなすサロベツ原野という風景です。

有名なサロベツ湿原は当然のことながら、海岸線に沿って幾筋も発達した砂丘の上に発達した砂丘林は、間に沼や湿原を抱き、森の姿も砂丘によって異なる多様性の宝庫。4000年かけてサロベツの海岸に発達した国内随一の規模を誇るこの稚咲内砂丘林は、まさにこの地域の宝物と言えるのかも知れません。

厳しい自然と闘って、生きてきた開拓の歴史。

そんな自然豊かな湿原と砂丘林をもつサロベツ原野は、かつて不毛の大地として開拓の跡を受け付けない土地だった。と話してくれたのは戦後豊富町役場に入り、後年町長を務めたサロベツ・エコ・ネットワーク顧問の斎藤慶四郎さん。「戦後に食料確保と失業対策のために大勢入植したけど、積雪と寒さと泥炭の土地での営農は厳しくて、何年もたたずにたくさん離農したんだよ」と往時を語ります。その後の国の事業による大規模な治水や土地改良があって、ようやく今日の豊富牛乳を産する一大酪農地帯になったのです。

「稚咲内は樺太からの引揚者たちが漁田開発のために入

地したんだけど、ここは海からの風が強いでしょ。1年のうち100日しか出漁できないしニシンはいなくなるし、海岸に農地を作って牛を飼って、半農半漁の厳しい生活だったんだよ」。その後、専業農家ができ、砂丘林をまたいで牧草地を造成しました。行き来する牛たちによって次第に森の一部が失われ、そこを吹き抜ける強風が周囲の木を枯らして3haもの無立木地が生まれてしまったと言います。

「森が無くなると道が雪で埋まって、冬には稚咲内は孤立した。砂で漁場にも影響が出てしまう」思いを馳せるのは地域の人々の暮らし。それを守るためにも、森を取り戻したい。そして「地域の内外の人が自然に親しみ、子ども

針なんです。サロベツは国立公園で自然が豊かだし、湿原を排水して農地も作り、酪農も発展した。湿原からは泥炭も採掘して、この3つの柱で町を発展させようとしたんですよ」今では泥炭の採掘は限定的ですが、酪農と自然を両立した地域づくりは豊富町の基本であり続けています。



顧問の斎藤慶四郎さんは、昭和22年から豊富町役場に勤務し、戦後のサロベツの歴史を見てきた。平成23年、環境大臣表彰を受けた。

「森林再生には地域の人みんながやってきます。地域につながりを保つのも、大切な森づくりの役割になってるんです」酪農家も漁家（漁師）も減り、地域コミュニティの維持が困難になる中で、どんぐりを集めることや苗木を作る作業は、地域の人たちが集まり、交流する貴重な場になっているのだと言います。その中心的な場であった稚咲内の小学校も廃校となり、地域のコミュニティはますます小さくなっています。でも、『未来の森どんぐりグリーン』とみんなが植え、育てたミズナラたちは、地域の人たちを結び絆であり続けると思っています。

地域を守りたい思い。
森林再生はキーワードだ。

「乾燥化が進む湿原は保全したいと思う。ただ一方で安定した農地で酪農を発展させるのも役目なんだよ」と、地域の発展を願って、自然と産業の共生のためにこの法人はあるのだと教えてくれたのは、代表理事の高瀬清さん。

「自然と農業と工業で発展しようというのが豊富町の方

地域の人が、
地域を育てる森を作る。

平成21年の秋、その年は5年ぶりのどんぐりの豊作の年でした。これは、森林再生事業が始まった年から2度目の生り年にあたります。それまで様々な方法を試しながらも、森林再生は上手くは進んでいなかったのです。

生り年のどんぐりの発芽率がいいことも、地面に落ちて虫が入る前にネットでどんぐりを採集することも、数々の失敗を通してようやく分かってきました。今では6000本の苗木が、地域の人たちに守られて少しずつその背を伸ばしています。

「一步一步進んでこの2年、ようやく手応えを感じています。北海道、環境省、町役場、地



町役場の職員だった代表理事の高瀬清さん。これからも地域目線でサロベツを見つめていく。



地域の子たちが、大きくなった木々を見に来られる、そんな森を目指して、地域みんなで育てる未来の森。

域の代表や有識者や、みんなですり合いつながりながら力を合わせて進めてきたんだよ」と斎藤さんは言葉に力を込めます。

「地域みんなが育てた森で、子ども達が木の葉とか虫とか紅葉とか、季節感を感じられるようになっていったらいいんだよ」高瀬さんは将来何十年か先の森に、人が集い楽しむ姿を映しています。

「もちろん自然も豊かですが、この稚咲内に住みたいと思っただけで人の温かさなんです」という嶋崎さんも、地域みんながこの森を守っていいことに喜びを感じているのでは

よ。厳しい自然の中で人々が生き抜くために無くしてしまった砂丘林。今、稚咲内では、その砂丘林の再生が、地域と人をつなぐ鍵となって育ち始めているのです。🌱

森の通信簿

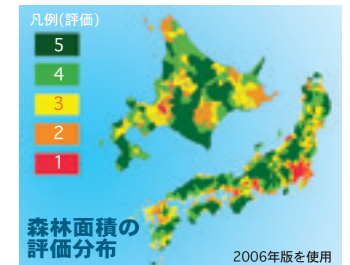
酪農学園大学
環境共生学類教授
金子正美



「森の王国 北海道！」と聞いて、異論を唱える人はいないかもしれませんが、でも、本当にあなたの住む街も森が多いのでしょうか？

日本の国土を100m四方の格子約3750万点に分割し、その土地利用を森林、農地、建物用地などに分類した国土数値情報（土地利用細分メッシュデータ）が国土交通省から公表されています。全国1758市区町村について、森林面積の割合割合で5段階にランキングし、「森の通信簿マップ」を作ってみました。通信簿で1と評価された市町村は東京、大阪、名古屋などの大都市圏に集中していますが、農村部にも点在しています。北海道では7市町村が1と評価されました。また、道北や道東の根室地方にも平均より低い評価2の市町村が広がっています。これらの市町村は、都市部ではなく水田や畑の広がる農村地域です。北海道の森林消滅の歴史は、都市の開発ではなく、農地開発の歴史でもあるのです。

1957年生まれ。赤平市出身。帯広畜産大学卒。北海道大学大学院環境科学研究科修了。北海道生活環境部、青年海外協力隊（マレーシア）、北海道環境科学センターを経て2001年より現職。地理情報システム（GIS）を用いた自然環境の解析や自然環境データベースの構築が専門。



森林面積比率の低い北海道の市町村	面積
妹背牛町	1675位
南幌町	1627位
新篠津村	1613位
秩父別町	1524位
長沼町	1480位
江別市	1472位
滝川市	1469位

※道内市町村で評価1となった地域。順位は全国中の順位を示す。

空沼工房

by chiemoku inc.

かわいい黒板消しの携帯電話ストラップ。
そこに込められた想いは、
身近な山に生きる木々への
温かい愛情なのでした。

ちょっとレトロを漂わせるような色、艶々とした滑らかな質感。そして一番魅力的なのはそのモチーフ。空沼工房が作る携帯電話のストラップは、黒板消しやモップ、楽器や工具など、きっと日常のいつかどこかで見たことのある物がモチーフ。昔爪弾いたギター、お父さんと一緒にした日曜大工、小学校の時に頑張った跳び箱、掃除の時にパンパンと叩いた黒板消し…。

木の優しい質感と、この日常にある懐かしい道具の組み合わせは、誰もが心奪われてしまいます。

「空沼工房」は、チエモク株式会社が運営する木製品のブランド。代表取締役の三島千枝さんは「役に立つものを作って、長く使って欲しいって思います。そのためにも、役割のある製品は大切だと思うんですね」と話します。大人気の黒板消しストラップは携帯電話の画面をきれいにできる機能つき。それは「木の第二の人生」を長く、豊かに過ごしてほしいという三島さんの思いから来ているのでしょう。

空沼工房は、小学校の総合学習や木工イベント、ワークショップなど、木の話の人へ伝える活動も積極的に行っ

ています。

「この板のゆがみは、木が生きてたころの体の仕組みによるものだとか説明すると、みんな『あぁ〜』っと納得するんですね。こうやって実際に見て聞いて木が生きているということを実感してもらいたいです」三島さんにとって、木が私達と同じ生き物だということ伝えるのも大きな役割なのです。

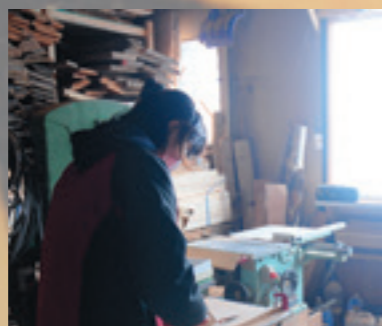
そんなふうには、木を大切に思う空沼工房の製品は100%が道産の木材。もともと実家が家具製作をしていたこともあり、木には慣れ親しんでいました。特に父親と森に入った時には、色々な木の話聞かせてくれたと言います。材料庫には、北海道をはじめ各地から集めたたくさんの木材のコレクションがありましたが、家具材として使えない木には父親は全く興味がなく、「シラカバはダメだ」と見向きもしない。三島さんは「シラカバなどの身近な木は使えないのかな？」と感じ、いろいろな木を使おうと思ったことから、馴染みのある北海道の木を素材として使いはじめたのだそうです。

そして今はその材の多くを下川町か

ら仕入れてます。自分たちが使った分の木はちゃんと森で植え、またいつかその木を使いたいという思いがあると話す三島さんは、伐採と植林、木の利用を持続的な産業として取り組む下川町を知り「これはすごいぞ！」と思ったと言います。そして下川町の森林管理の取り組みをもっと世間に評価してもらいたい。それが広がることで北海道の森林が持続的な資源になっていく。そんな思いで、下川の木材を愛用しているのです。

木に愛着を持ち、木製品を作る裏側には、もっと知ってもらいたい、長く使ってほしいと言う木への愛着があります。何よりもその思いが伝わるのは、空沼工房の製品はどれでも格安で修理するというシステム。ストラップなんて新しく買ってもらった方が効率的に決まってる。だけど木の第二の人生をより長く、より愛されて生きてほしいという木への思いが、こうした活動へと結びついています。

三島さんの木への愛着が製品から手を通して伝わってくる。その感触を、ぜひ手にとって感じてみてください。✦



チエモク株式会社 代表取締役
三島 千枝さん

家具職人の父のもとで育つ。一般企業に勤めたのち、父の工房で作った小物類が注目された。様々な出会いのうちにヒット商品となり、2008年にチエモク株式会社を設立。現在4人のスタッフと活動を行っている。

ホームページ <http://www.soranuma.com>

※「空沼工房」の黒板消しストラップを读者プレゼントします。詳しくは裏表紙をご覧ください。

樹の話

その1 ミズナラ



ミズナラ、という、知らない、どんな木だろう？ という人でも、近頃では、オークと言うと、聞いたことがある、と言うようになりました。オーク材とか、オークの樽とか言いますし、いろいろなお店の名前にもなっているからでしょう。

そのオークが、ナラ、ミズナラなのです。でも、Oakは辞書を引くと、たいていは櫟(かし)と訳してあります。櫟は常緑性で、^{ナラ}櫟は落葉性です。宮本武蔵の木刀はカシで出来ていたはずで、ウイスキーの樽はナラでなければならない。でも両方とも、いわゆるドングリが生ります。

ナラ材は固くて緻密ですから昔から建築材、家具材などさまざまに使われました。イングリッシュ・オークは特に船材、それも帆船時代の英国海軍の軍艦のマストに使われたことからロイヤル・オークとも呼ばれました。

カシワの葉は、名譽の象徴としてしばしば軍人の肩章や帽章などにもデザインされています。強さが表れていることなのでしょう。

強さと言えば、そもそもミズナラ、コナラやカシワは、砂丘や火山灰地そして急斜面や崖など地形的にも土壌的にも劣悪なところにもよく生えます。というよりも、そういう場所ではナラ類以外の樹木が育ちにくいのです。海岸の崖地などでは風当たりも激しいのですから、風になびいて旗のような形になるのも珍しくはありません。その上、枝も密生しますから、林の中は見えないほどになります。

地中海沿岸のナラが造るこうした群落は、マキと呼ばれて昔から密輸業者や山賊の籠る場所でした。第二次大戦中にはそこがレジスタンスのゲリラの巣に利用されました。彼らはマキ団と呼ばれたのです。

日本では山賊の巣にはなりませんでしたが、同じような形の密な群落を造る四国沿岸のウバメガシなどから造られる固い炭は昔から焼き鳥用として知られています。北海道ミズナラの炭も優れた品質で、かつては特に胆振、日高、十勝から釧路沿岸でその炭焼きが盛んでした。最近、再びその炭焼きが復活してきています。新たな里山の産業です。

石狩地方では樽前山の^{とうろくしゃめん}東麓斜面、新千歳空港周辺などがミズナラ林の多いところ。新千歳空港への旅客機は、初夏には明るい浅緑色の、そして、秋から冬に掛けては褐色の葉の海に飛び込むように着陸します。しかし、もっと大きなミズナラの景色はやはり広大な十勝平野のものでしょう。初冬の雪を^{まと}纏った日高山脈を背景として、広々と展開する明るいセピア色のミズナラ林は晴れた青空の下、ことのほか美しい。それは、かつてここに住んだ画家・坂本直行さん(ちよつこう)がもっとも好んで画材としたものでした。

ミズナラの大きなものは今では少なくなりました。でも、たとえば大樹町などでは、まだ少しは大きなものがまとまった林を造っています。

ミズナラ林の特徴は林の中が明るいこと。先に、地中海のマキ群落は枝が密生していて中が見えないくらいだと述べましたが、それは外からの視界が遮られるからで、林の中が真っ暗で見えないということではないのです。ミズナラなどの林の中は^{かんぼく}案内に明るい。ですから、いろいろな草や灌木が生えています。雑木林といったところなのです。小道でもあれば散歩するにはいい。フットパスなどには絶好でしょうね。✦



元 北大植物園園長
辻井 達一

'31年東京生まれ。'59年北大大学院を終えて農学部附属植物園で助教授、園長。この間、パタゴニア、アラスカ、ネパール・ヒマラヤ、シベリア、カナダなど、もっぱら湿原植生を研究テーマとする。

'88年農林生態学研究室教授。'95年、北星学園大学教授。'97年、北海道環境財団理事長。日本国際湿地連合会長。著書：湿原、北海道の湿原と植物、日本の樹木、続・日本の樹木など。



のぞいてみたら何がいるよ。
ちょっとキモいわない？
よく見るとおもしろい！
さがしてみよう、森のいきもの。
ほら、いのちのふしぎにあふれてる。



ニホンアマガエル 日本雨蛙

小型のカエルで背中が黄緑色。でもいる場所によって黄色、茶色、灰色に色変わりすることもあるんだ

春が来た
カエルたちを見つけてみよう
さわってみよう



エゾアカガエル 蝦夷赤蛙

中型のカエルで鼻先が少しまるいよ

北海道にもともといるカエルはニホンアマガエルとエゾアカガエルの2種類



ニホンアマガエル
くらべてみよう①
鳴き声も鳴き方も！
オスにだけ「^カ鳴のう」というふくらむ器官があって、メスにアピールする声を出せるんだ。カエルの種類によってふくらむ場所が違うよ。



エゾアカガエル
くらべてみよう②
個性も注目してみよう

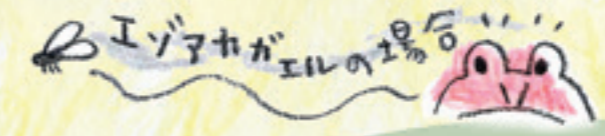
くらべてみよう③
足の形は得意技！
エゾアカガエルは水かきが発達して、泳ぎが得意！
ニホンアマガエルは吸盤がついていて、木登りが得意！



移入種のこと
本当は北海道にはいなかったのにすみついてしまった両生類や爬虫類がいます(移入種)。その原因のほとんどが私たち人間によるもの。飼うために持ち込まれて放されたり逃げられたり、物資にまぎれてきたりして増えてるんだよ。移入種が増えると、もともといる生き物のすまい場所やエサが無くなることもあるんだ。



生まれて、育て、カエルになるまで



春は恋の季節



春が来ると子どもを作るために、卵が産める池や沼、雪どけでできた水たまりにカエルたちが大集合！
両生類の間ではエゾアカガエルとエゾサンショウウオが一番のり♪池ではオスたちが先にきて、メスがやってくるのを「キャララララ」と鳴きながら待っています。このときアピールして鳴くのはオスだけなんだ。メスとカップルになるとオスが後ろからギュッと抱きついて産卵。そこにオスが精子をかけることで赤ちゃんが産まれるんだ。

※エゾアカガエルの繁殖期は3月末・4月頃～5月頃まで。
ニホンアマガエルは5月頃から9月頃までと期間が長い



卵のかたまりをひとつの場所にたくさん産むエゾアカガエル。小さく産まれた卵は水を吸ってどんどん大きくなっていきます。

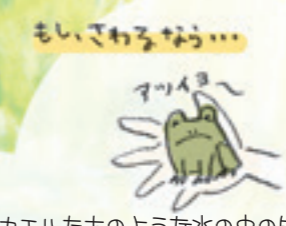


全長10mmくらいで産まれたオタマジャクシ。水の底で暮らしながら、後ろあしが生えるころには45mmくらいに育つよ。次に前あしが生えて、約2ヶ月で15mmくらいのカエルに変わるんだ。

※環境により、変体の時期などは変化する

ニホンアマガエルの卵は10つづ前後のかたまりで浮いてるよ

見つけたらさわってみよう



カエルたちのような水の中の生き物は体温が低めだから、長くさわると手の熱で弱ってしまうよ。オタマジャクシはタッパーなどにに入れて観察してみてもいいね。

手はなるときは「かならずつかまえた場所」に！



公園のオタマ ペットショップのオタマ
いっしょにじまいて！

ペットショップで買ったものなど、ほかの場所から連れてきた生き物や水をいっしょにはいけません。それぞれの持っている菌がうつることがあるんだ。

同じような環境に見えても、その場所ごとによってバランスが保たれている。もしも飼えなくなったら、卵もオタマもカエルになっても、産まれた場所にもどすことが大切だよ。

北海道爬虫類・両生類ハンディ図鑑

徳田龍弘 著
北海道新聞社



morinoko



新岡薫/エトブン社
北海道のイキモノをテーマに絵と文を描いているイラストレーター。トカゲと鳥とエゾシカが気になる。猫とキツネを見たら追いかける。クモはちょっとコワい。好きなことは森と動物園と水族館の散歩。札幌出身。
ブログ <http://etobunshaimyezo.blogspot.com/>



お話を聞いた人

徳田龍弘さん

北海道爬虫類・両生類ハンディ図鑑の作者でもある「ばいかだ」こと徳田さん。ヘビを中心に爬虫類、両生類、野生動物を撮影しているフォトグラファー&ライター。北海道では幻と言われたヘビ「シロマダラ」を見つけたり、生き物に出会う旅に出かけたり、わりと野外で活動中。日本爬虫両生類学会会員、日本自然科学写真協会会員、獣医師。札幌生まれ。

ホームページ <http://baikada.com/>



宮本尚/きたネット

森好き、ヘンないキモノ好きは、オホーツク海を眺めて育った子どもの頃から。最近ではキノコのトリコです。北海道の森の歌を作りたいと思いつつなかなか時間がとれないのが悩みのタネ。今年こそ！
Facebook <http://www.facebook.com/nao.easter>

人のくらしに近い森が ここちよいのだから。

子どもの頃数年間を過ごした家は、オホーツク海から入った小さな谷にありました。そこには学校と教員住宅が数件あるだけで、酪農を営む住民の家はみんなまわりを囲む低い丘の上にあります。

谷合に住んでいた私が友だちの家に遊びに行く時の近道は、光のさしこむ谷の小川に沿った小道を歩き、崖沿いの踏み分け道をのぼる、フットパスのような生活道路でした。もちろん車は入ることができません。きれいな小川が流れ、柳や白樺の林があり、腰をかけられる倒木があり、蜂蜜をとる箱が突然出現したり、どこかの家の子牛が草を食べていたりしました。

友だちの家の帰りには、山菜、小鳥の餌になるハコベ、野の花、薪ストーブに使う白樺の皮など、収穫物をひとつかみ、暮らしと自然がいつもとても近くにありました。

丘を上った牧草地の横には、カラマツやトドマツなどの針葉樹の人工林がありました。若いまっすぐな木がきれいな列になって、さわやかな香りを振りまき、秋にはふかふかの落ち葉の下からラクヨウキノコが出ます。

クリスマスには、育ちの悪い小さいマツをもらってツリーにしました。住民参加の間伐です。盆地の端には、春にはミズバショウやヤチブキが咲く湿地があり、その向こうはエゾヤマザクラが美しい、札幌の円山や藻岩山に近い植生の自然林です。山菜やキノコ、

エゾリスやカナヘビなどのイキモノに出合う森でした。

最近、数十年ぶりにこの村を訪問して、美しかった記憶の風景の荒れ様に驚きました。

小川の小道は笹に覆われ、人の入れない沢になっていました。針葉樹の林は枝が密集した真暗な森になって、朽ち木や倒木が他の木に倒れかかって道を塞ぎ、大きなカラカサタケが亡霊のように生えていました。湿地の向こうの自然林の斜面は美しいままでしたが、手前の道がなくなってしまっ、もはや身近ではなくなっていました。

どうしてこんなに変わってしまったんだろう、と考えて、谷の中央にあった学校が廃校になってしまったことに思い当たりました。

小川に沿った道は、子どもたちが学校に通うための道だったのです。今は公民館になっている旧学校にはみんな車でやってきますので、歩く道は使われなくなってしまったのでしょうか。

針葉樹林の荒廃は、国産材が使われない時代の到来と林業者の不足でしょうか。自然林の斜面に行けなくなったのは、過疎でその山を利用する人がいなくなったのだと思います。

人がここちよいと感じる自然、人の暮らしに近い自然、人に優しい自然は、そのほとんどは、人が自然とともに暮らすために道をつけた場所です。誰かが歩き、倒れた木は横によけ、侵入してきた草を踏み、丸木橋をつくった、

そういう場所でない沢歩きのプロ以外には入っていくことはできません。

北海道には身近にこんなに森があるのに、森遊びの体験がある子どもは少ないということです。札幌はすぐ目の前に藻岩山や円山がありますが、天然記念物や保存林になっていて、気軽に入って、使って遊ぶ、使って暮らす森ではありません。都市に近い貴重な自然林は、人が押し寄せると荒れてしまうので、保護するしかないのです。

必要なのは「里森」のイメージの身近な森です。森づくり団体の方からは「私たちは身近な森を手入れして、子どもたちに自然と親しんでもらう場にしたのだけれど、近郊には使える森がない」という声を聞きます。その一方で札幌周辺には荒れたまま放置されている民有林がたくさんあり、その森を市民団体に活用させてくれる森主さんはいないだろうか、その橋渡しが必要とされています。

3.11から一年、原発事故は、地域の自然と親しむ暮らしを奪い、子どもたちが自然に触れることを禁忌とする社会を生み出してしまいました。市民団体の中には、福島や東北の子どもたちを受け入れて、自然の中で過ごしてもらおう活動をしているところがあります。

北海道の自然を守り、自然と親しむ体験、自然を愛する心を未来にしっかりと手渡していきたいと思います。▲

みやもと なお NPO法人北海道市民環境ネットワーク「きたネット」理事



オホーツク出身、東京での生活を経て、札幌市在住。コピーライター、心身障害児(者)の介護・マネジメントなどを経て、現在は「NPO法人北海道市民環境ネットワーク」理事・事務局。シンガー・ソングライター。共生していた黒猫が6月に世界、もう1匹の18歳2カ月の猫と私は、ちょっと寂しい今日この頃。

event

北海道の森づくり交流会 2012

私たちにどんな森づくりが必要か。講演会やワークショップで、みんなで北海道の森づくりを考えました。



特別講演

森と人を、暮らしの中につなごう。

大学院で学んでいる頃登校拒否になり、行った先の山で杉の木に呼び止められたのが木との出会いでした。「木に触れると温かい」「癒される」と、その時初めて知りました。木に癒されて、恩返しをしたいと思っていたんです。植林地は暗くて痛々しく、そこにいたくないと思ってしまいました。花粉症などもあって、人が植えたはずなのに邪魔者扱い。そんなことを思ううち、山仕事の塾に通うようになって多くのことを学びました。そのうち家を建てることになり、人の生活の中で木を使って森を手入れし、恩返しができると思いました。家は国産材で建て、薪ストーブ、薪のお風呂で実際に木を使う生活をするようになり、里山的に木を使う暮らしをしています。そこ

で気付いたことは、普段私たちの暮らしの中には木を使う「装置」がないということ。住宅には薪ストーブなど、木を使う「装置」が必要なんじゃないかということでした。海外に行ったとき、林業が国の主要産業であるスウェーデンでは、120年を周期とする循環林業をして、自然林に近い森づくりをしていることを知りました。そしてそれが市民運動からはじまったことも。各家庭ではストーブやペチカなどで木を使っています。町では大きなボイラー施設で暖房のお湯を町中に回している。個人の木づかいと町の大規模な木の使い方、国として本気の方針があるのがポイントなんだと思

いました。ドイツでもイタリアでも木を使う風景が普通にある。身近な木を使って公園を整備したりする。そこにあるものを使うという素朴な原点が生きてるんだと思いました。

結局、暮らしに森をどう取り込むかだと思います。なじみがないだけで、使える可能性はたくさんある。色んなことを見直すこの時代、森は日本の資源です。少しずつでもそんな考えを広げていきたいと思いません。北海道の森づくりをしていく中で、もっと日常に森をもってくるように、交流できるように、みなさんには考えて欲しいと思います。

浜田 久美子氏



作家。NPO法人伊那谷森と人を結ぶ協議会副代表、NPO法人森づくりフォーラム理事。森と木と自分がつながっている暮らしが人には安定を、森に安楽をもたらすという視点から活動。著書に『森をつくる人びと』『森のゆくえ』(コモンズ)『スウェーデン森と暮らす』(全国林業改良普及協会)など多数。

森づくりのビジョンを 確かめ合う

全道各地の森づくり団体が集う北海道の森づくり交流会も2回目を迎えました。

全道の会場をテレビ会議でつないで行われるこの交流会には、今年もたくさんの方々が集まり、お互いにどんな活動をしているのか、どんな交流ができるのかを情報交換する場となりました。

第一部では、浜田久美子さんによる森と人の大切な関わりについての講演に続き、組合員さんによる森づくりの活動報告、助成団体の森づくりの活動報告が行われ、みなさんがそれぞれのスタンスをもって森づ

くりに取り組みされているということを共有しました。

2012年度の助成団体は、高額助成が4、少額助成が10、合わせて14の団体となりました。こうして北海道中で、多くの人が森に関わる機会が増え、森と人がつながって北海道の森の価値を高めていけることを願います。

横のつながりも 育もう

第二部では、集まった参加者同士が交流を深めるために、北海道でどのような森づくりをしていったらよいのか、どんな森が理想的なのかをワークショップで話し合い

ました。ポーッとできる森、たき火ができる森、心を育てる森…みなさんが思い描いた皆さんの「すてきな森」。この森が現実の物となっていってほしいですね。



グループごとに森づくりの想いを形にしました。そこにはいろんな森の姿がありました。

event 国際森林年記念講演会
C.W.ニコルと森を考える

日本の森はすごいよ。

22歳で武道をするために日本にきましたが、都会は苦手です。山に連れて行ってもらって、都会から数時間離れただけで雪がたたく山があること、木の種類も大木も多いに驚きました。雪洞を掘ってみんなで探検のことを話しました。本当に楽しかった。日本中歩いたけど、自然については驚きの連続でした。東京にもクマが生息している豊かな森があること。北海道の森はカナダみたい。初夏にブナの原生林を見たとき、エデンのようだと思いました。若葉の木漏れ日はどんな大聖堂のステンドグラスよりきれい。どこからも水が笑っている音がする。いろんな花、鳥、植物。本当に驚いて、この日からなぜ日本にこんなに森が残ったのか、勉強したいと思いました。40歳で南極に行き、その後日本に住みたいと思いました。黒姫に住んで、最初の冬は雪が大変だったけど、本当に美しかったです。でもこの山は下手の覚えでは死ぬと思った。だから狩師さんについて山に入りました。本当に山は美しかったです。クマにも会った。クマがいるから他の動物もたくさんいました。翌年一人で山に入ったら森は伐られ、動物もいなくなっていました。原生林は日本中でどんどん伐採された



C・W・ニコル氏

英国ウェールズ出身。海洋哺乳類の調査研究やエチオピア国立公園の設立など、野生生物保全に力を尽くす。アファンの森林財団理事長、2011年国際森林年国内委員会委員。主な著書に『風を見た少年』（クロスロード）、『マザーツリー・母なる樹の物語』（静山社）、『魂のレッスン』（NHK出版）など多数。

んです。悲しかった。バブルで日本は変わってしまったんです。ウェールズの故郷のすぐ近くで作っている森の公園に日本の木を植えたいと手紙がきました。その谷は石炭産業でひどい場所だった。山も川も死んでいた。思い出したくない場所だったんです。すぐに英国に帰って見たら、谷は緑になっていました。川もきれい。ボタ山にも木を植えたんです。市民の力で谷はよみがえっていたんです。

行動を見せようと思った。

私は日本で行動を見せようと思いました。地元の猟師さんを口説いて森の手入れを始めたんです。最初4万5千坪だったのが今では9万坪。絶滅危惧種は29種類、山菜は7種類だったのが137種類。きのこも増えました。クマも来るようになった。ゴミだらけだった川も掃除して段差を作って酸素を入れてやれば、生き物たちが帰ってきます。木を間伐して林床に10%の光を入れてやれば、草が生えて虫が来て鳥が来て種を落とし、循環します。もし北海道でみんながそんな森を作ることになったら、どんなに美しい森になるか。

アファンの森のとなりはスギ、カラマツの国有林があります。長野県は森林が多いけど、木材は少ない。木材を供給するシステムは崩れている。10~20年のうちに木

2011年11月18日、日本の森林再生はどうあるべきなのか。日本の森をずっと見てきたC.W.ニコル氏が語ってくれました。

材自給率は50%にするべきです。日本の材木は質がいいから、やろうと思えばできるはず。国には目覚めて欲しいと思う。森が回復したら日本人の心が回復すると信じています。

森は癒しの場。間違いはない。

子ども達が外で遊ばなくなってゲームや携帯だけ見るようになってきた。がまんや集中ができない子どもが増えてきました。子どもは小さい頃から自然で遊ばないと、五感を使わないとだめです。日本では子どもの虐待が増えています。新聞に出るのはごく一部。そんな子を森に呼べば少しは心を開くかな、と思って8年前からプログラムを行っています。森は癒しの場です。ウェールズでは森の散歩の処方箋を医者書きます。

日本は震災で恐ろしい思いをしました。そのつらい思い出はまだ続けど、今がチャンスだと思う。いい日本をつくらうよ。森と川と、美しい日本を。森は最後には癒しの場だから。いい日本を、私は信じます。✻



Sponsors

2011年度 コープ未来の森づくり基金 ご協賛を頂いた企業・団体様
コープ未来の森づくり基金は、下記の企業・団体の皆様をはじめとする多くの方々を支えられて運営しています。

エコ商品協賛	丸中 中津川水産 (株) ベル食品 (株) (株) 大一大和屋食品 テールマーク (株) (株) 香貴 ヤマザキナビスコ (株) イトウ製菓 (株) (株) ロバパン (株) 東ハト ハウス食品 (株) ジャパンフリトレー (株) 大塚食品 (株) カルビー (株) (株) 桃屋 北海道乳業販売 (株) (株) 湖池屋 日本製粉 (株) 赤城乳業 オハヨー乳業 (株) 亀田製菓 (株) サッポロビール (株) (株) 北海道サンジェルマン (株) 北海道水 サッポロ飲料 (株) タカノフーズ (株) 東洋水産 (株) 山崎製パン (株) アサヒ飲料 (株) (株) 伊藤園 (株) 白子 カルピス (株) (株) アクリアーズ 日本ハム北海道販売 (株) 河上水産 (株) 三統食品(株) 江崎グリコ (株) (株) 札幌キムラヤ (株) 紀文食品 サツラク農業協同組合 丸美屋食品工業 (株) 日本甜菜製糖(株) (株) ホッカン 丸大食品 (株) サントリーフーズ (株) (株) ニッキーフーズ カネカ食品 (株) グリコ乳業 (株) (株) 一印旭川魚卸市場 (株) 室蘭製糖 (株) パールエース (株) 入福福田商店 森永製菓 (株)	(有) 紀の国食品 (株) 宇治園 (株) 廻川 アサヒフードアンドヘルスケア (株) 伊藤食品 (株) 越後製菓 (株) 阿部牛肉加工 (株) 東海漬物 (株) 六甲バター (株) エスピー食品 (株) 片岡物産 (株) プライフーズ (株) マルカワ食品 (株) ヤマキ (株) 江別製粉 (株) 加藤産業 (株) 内堀製菓 (株) 池田食品 (株) 男山 (株) 日清食品冷凍 (株) やまう (株) ネスレ日本 (株) ヤマトモ水産食品 (株) 沢の鶴 (株) プリマム (株) クラフトフーズ販売 (株) 一正蒲鉾 (株) かねさ (株) ヤマザ醤油 (株) たいまつ食品 (株) (株) 大和屋食品 味の素ゼネラルフーズ (株) (株) はくばく (株) みずずコーポレーション ニコニコのり (株) 佐々木畜産 (株) 藤原製糖 (株) ひかり味噌 (株) ハインツ日本 (株) 岩田醸造 (株) (株) 小山本家酒造 エバラ食品工業 (株) (有) 中田食品 新得物産 (株) 日本クラフトフーズ (株) イズヤパン (株) 大塚製菓 (株) (株) 粟山米菓 ハウスウェルネスフーズ (株) (株) 北海道ポッコロレーション 山下食品 (株) アサヒビール (株)	(株) 増子 (株) セネラルフーズ (株) 大森屋 メルシオン (株) ほごもろフーズ (株) 井開食品 (株) 白鶴酒造 (株) 日進製菓 (株) キッコーマン食品 (株) 三井農林 (株) 会津天竺醸造 (株) (株) テンヨ武田 カゴメ (株) 東北みやげ煎餅 (株) (株) 大井川茶園 キーコーヒー (株) エヌアイエスフーズサービス (株) ジョソソソ (株) 順産胎 大王製紙 (株) H&P C事業部 春雪さぶー 上北農産加工農業協同組合 (株) 坂口製粉 (株) 創味食品 (株) 淀里 中村商店 王子ネピア (株) クラシエフーズ (株) (株) 菊泉堂製菓 旭トラスフーズ (株) マルコム (株) (株) マルナカ 興野ジャパン (株) 和光堂 (株) キリンビール (株) 井村屋(株) 小林製菓 (株) かどや製油 (株) ブルックフーズ (株) (有) 北創フーズシステム (株) ソラチ 伏見蒲鉾 (株) 共栄食肉 (株) 宮坂醸造 (株) (株) マスコ 小川珈琲 (株) 佐藤食品工業 (株) (株) ウメタ 北日本食品販売 (株) (株) 創健社 UCC上島珈琲 (株)	(株) 七尾製菓 ロッテ商事 (株) サントリービア&スピリッツ (株) はこだてわいん (株) 宇治の露製茶 (株) 北の露酒造 (株) 札幌酒造工業 (株) 米久 (株) 月桂冠 (株) 昭和産業 (株) 濱田酒造 (株) 若松酒造 (株) フタバ食品 (株) デリー物産 (株) (株) わかさや本舗 日本ナリゴ (株) (株) 北辰フーズ 奥の松酒造 (株) 富永貿易 (株) チョーヤ梅酒 (株) 日清ススコ (株) 雲海酒造 (株) (株) エコERC 東京サラヤ (株) (株) みうら食品 サントリーワイン (株) (株) マルハニチロ北日本 (株) ブルボン 日清フーズ (株) 日欧商事 (株) 日本清酒 (株) 国福 (株) ベルノリカール (株) 東海製粉 (株) (株) 白元北日本営業部
--------	---	--	---	---

年度協賛

コープさっぽろ協会
日本レッシュフーズ (株)
ホクリヨウ
北海道漁業協同組合
北海道森林組合連合会
北海道農業協同組合中央会
農林中央金庫
北海道森林組合振興協議会
ホクレン農業協同組合連合会
北海道生活協同組合連合会
コープさっぽろ共済部



取締役営業本部長
福島 尚樹さん

株式会社ホクリヨウ

コープさっぽろとの共同企画で、「みどりのエコたまご」という商品を販売したことが最初でした。「みどりのエコたまご」は、飼料に食品の残渣(食品工場から出る副産物)や、総菜部門から出る廃食油を使ったり、パックにリサイクル原料を使用するなどして、環境に配慮した商品です。

この商品の売り上げから、1パックにつきコープさっぽろとホクリヨウがそれぞれ0.5円ずつ、合わせて1円をコープ未来の森づくり基金に寄付するという形で、消費者と一緒に作った森づくりの応援をすることができました。

「みどりのエコたまご」は140万パックを売り上げ、現在は販売を終了しましたが、代わって道産のお米を飼料にした「黄金そだち」の卵を生産・販売しています。また、飼料への食品残渣の比率を高めて、より循環型の卵づくりを目指しています。

また、私どもは北海道の自然があつての企業です。今後も卵を通して社会貢献を続け、その中で森づくりについても、北海道を中心としてグローバルな視野で応援を続けていきたいと考えています。✻

Information

チームあすもり 森づくりメンバー募集!

未来に届ける新しい森を
いっしょにつくろう!

2013年から、当別道民の森で新しい森づくりがスタートします。
新しい植樹地、5haをどんな森にするか、いっしょに考えませんか?
実がなる森? 歩いて楽しい森? 動物が暮らす森?
森の姿を学んだり、森づくりを体験しながら、
未来につなげる森をチームみんなでつくりましょう。

- 「こんな森をつくりたい」という思いを形にして未来の子どもたちや森の生き物たちにプレゼントしましょう。
- 全6回のワークショップです。
- ワークショップでは何をします?
森づくりは「森を読む」ことから始まります。土地の日当たりや風、水、土、生き物など、環境を読みとり、周辺の森に学んでどんな森づくりをしたいか、人は自然のためにどんな助けができるのかを考え、森づくりをすすめます。

●ワークショップ開催予定日 ※予定は変更になる場合があります

5/20(日) 7/16(月・祝) 9/22(土・祝) 10/21(日) 11/17(土) 12/8(土)

※ワークショップは当別(現地)・札幌で開催予定です。現地開催の場合は札幌駅発着のバスを用意します。



◆募集対象 コープ未来の森づくり基金 あすもりサポーター
・ワークショップにできるだけ毎回参加可能な方

◆募集定員 20名(応募多数の場合は選考となります)

◆参加申込み方法
①名前 ②住所 ③電話番号 ④FAX ⑤メールアドレス
⑥年齢 ⑦性別 ⑧これまで「コープ未来の森づくり基金」の植樹活動への参加の有無
⑨森や森づくりについてあなたの思いをお聞かせください(400字程度)

◆募集期間 4月30日(月) 必着

◆お問合せ・お申込み
コープさっぽろ 基金事務局 宛
メール: csap.k.asumori@todock.jp
郵送: 〒063-8501 札幌市西区寒寒11条5丁目10-1
FAX: 011-671-5743

コープ未来の森づくり基金 助成報告

2012年度コープ未来の森づくり基金助成は、21団体からの応募をいただき、右記、高額助成4団体、小額助成10団体に助成を行いました。コープ未来の森づくり基金では、今後も森づくり活動を進める団体を支援してまいります。

高額助成	小額助成
木育ファミリー 川田工業株式会社・NPO法人トカブチの森 森づくり実行委員会 特定非営利活動法人 森林再生ネットワーク北海道 釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ 運営代表者会議	オホーツク森林レスキュー くしろ森林サポーターの会 北海道住宅の会 特定非営利活動法人トラスサレン釧路 里見緑地環境整備住民ボランティアの会「どんぐり」 NPO法人北広島森林ボランティア・メイプル 間伐ボランティア札幌ウディーズ 当別森林ボランティア「シラカンパ」 特定非営利活動法人緑の探検隊 北海道グッド・トイ委員会

コープ未来の森づくり基金 収支報告

2011年度は、お買い物のレジ袋辞退の取り組み、企業・団体様のご協力により2777万円が積み立てられました。全道のコープの森や北海道漁連様の魚付林植樹への支援。道内の森づくり団体への助成。C.W.ニコル氏をお招きした国際森林年記念講演などを開催いたしました。今年度は栗山町との植樹協定を新たに締結し、道内のコープの森は9カ所となり、魚付林も含め10,000本の植樹が実現いたしました。2012年度には新たなコープの森が増える予定です。今後ともコープ未来の森づくり基金の活動への支援とご協力をお願いいたします。

収入	2011見通	2012予算
レジ袋辞退	22,626	23,100
エコ協賛金	5,151	4,300
収入計	27,777	27,400
支出	2011見通	2012予算
植樹活動費	8,455	9,080
助成金支援	8,974	9,000
広報啓発費	2,701	1,500
基金運営費	6,929	7,320
調査研究費	317	500
支出計	27,376	27,400

(単位: 千円)